

2020年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	ロンドンスクール・オブ・エコノミクス・国際関係史学部・博士プログラム	助成金額	20万円
氏名	水野良哉		
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）			
脱植民地化期におけるアーノルド・J・トインビーの国際関係思想の解明			
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）			
<p>申請者は、貴財団の研究助成を受け、二〇世紀のイギリスの歴史家である、アーノルド・J・トインビー (Arnold J. Toynbee) が、第一次・二次世界大戦によるヨーロッパの衰退、そして反植民地主義や脱植民地化が進展し、世界的にヨーロッパの諸国の優越性が疑われる中で、西洋文明と非西洋文明との関係性について、どのように自身の思想を発展させたかを内在的かつ体系的に検討することに努めた。</p> <p>申請者の研究は、世界政治における規範や思想、または世界秩序の構想史などに着目する国際関係思想史 (History of International Thought) という、学際的で新しい研究領域に連なるものである。同研究領域においては、一九世紀後半から二〇世紀前半の国際社会において、人種や文明の階層性を前提とした帝国による世界秩序が形成されていたことが近年盛んに論じられてきた。しかしながら、そうした秩序に基づいた国際社会がいかに変容したか（あるいは、そのように考えられたか）という点は、これまで十分に検討されてこなかった。申請者は、上記のトインビーの思想を検討することを通じて、二〇世紀中葉に人種や文明の階層性に基づいた帝国による世界秩序が崩れる中で、ヨーロッパの人々が、世界秩序や国際社会に関する認識をどのように変容させたかという問題について一定の視座を提示することを試みた。</p> <p>より具体的な話として、申請者は、貴財団による研究助成により、イギリスにて未公開の一次史料を含む研究史料の収集に従事した（具体的な用途に関しては、以下に記載の通り）。研究対象であるトインビーは、イギリスの知識人であり、その知的活動に関する史料は、LSE 図書館、英国国際問題研究所、英国国立公文書館、そしてオクスフォード大学・ボドリアン図書館など主にイギリスに点在する。そのため、同国に一定期間滞在し史料調査を行い、研究を進展させる必要があった。</p> <p>申請者は、二〇二一年の夏以前に渡英し史料収集を行うことを想定していたが、新型コロナ・ウイルスの問題や自身の仕事に関連する業務で同時期の渡英を断念せざるを得なくなった。しかしながら、二〇二一年の九月の半ばには渡英し、既述の LSE 図書館、英国国際問題研究所、英国国立 公文書館、そしてオクスフォード大学・ボドリアン図書館などにおいて史料収集を行った。現在は、収集した史料の分析・解釈を基にして、昨年九月末から転籍したロンドンスクール・オブ・エコノミクス・国際関係史学部・博士プログラムにて、トインビーの国際関係思想の更なる解明に取り組んでいる。また、貴財団による研究助成を基にした研究成果を、研究報告や論文の公刊などを通じ今後広く公表していく予定である。</p>			
助成金の使用金額及び用途			
<p>【イギリスへの旅券購入費用】 15万円。</p> <p>申請者の研究対象であるトインビーはイギリスの知識人であるため、渡英し史料収集を行う必要があった。そのための旅費に使用した。</p> <p>【研究に関連する書籍購入】 4万5千円。</p> <p>自身の研究を発展させるため、英語・日本語の関連文献の購入費用に使用した。具体的には、トインビー自身の著作など、研究上の一次史料に関するもの、そして二〇世紀前半における国際関係史や政治思想史に関する二次文献を購入した。</p> <p>【オクスフォード大学・ボドリアン図書館への渡航費用】 5千円。</p> <p>トインビーの個人文書は、同図書館に所蔵されており、ロンドンからオクスフォードへの移動費用に使用した。</p>			
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）			
<p>(1) 貴財団の研究助成に関連する論考である、「「米英連邦」の模索——第二次世界大戦初期におけるアーノルド・J・トインビーの世界秩序構想——」を『国際政治』に投稿した。現在、修正の上掲載可という査読判定を受け、該当論文の修正に努めている。掲載の際には、貴財団の研究支援の旨を記載する予定である。</p> <p>(2) また、第二次大戦後の脱植民地時におけるトインビーのイギリス帝国や多文明観の共存に関する認識について、現在論文を執筆中である。同論考は、博士論文のサンプル・チャプターとして、在籍先に六月中に提出予定である。</p>			